

都道府県別賞一等

保険はよりよい人生へのパスポート

福井県 越前市武生第一中学校 三学年

山本 大翔

「能登半島地震」一月一日の元日、人々が皆お祝いモードに浮かれ、家族や友人と穏やかに過ごしているなか、私たちにとって忘れられない悲劇が起きました。戸棚がガタガタと揺れ、テレビからは緊迫した声で避難を呼びかけるアナウンサーの声が響き渡り、映像では地震による土砂崩れで家が倒壊し、津波が住宅地に迫り襲ってくる様子が報道されていました。ただごとではないニュースの映像に僕は目を見張りました。

幸い、僕の住んでいる地域に大きな被害はありませんでしたが、今まで経験したことのない大きな揺れに危機感を感じ、思わず外に飛び出して恐怖で身体が固まったこの日をきっかけに、僕は生命保険について考えるようになりました。今までの僕は、生命保険といっても、新聞のチラシやテレビのコマーシャルで見たり聞いたりしたことがあるだけで、「保険は大人が考えるもので、子供の自分は関係ない」「色々な保険があつて難しそうだしあまり関わりたくない」というネガティブなイメージで捉えていました。その結果、長年関わることもなく、むしろ敬遠していた存在でした。

しかし、今回の地震で被害にあつた大勢の人々がどうなってしまうのか心配であれこれ調べているうちに、保険に助けられて立ち直ろうとしている人が沢山いることを知り、興味を持って詳しく調べてみると、保険が人々の身近な生活に重要な役割としてとても役立っていることを知りました。

生命保険とは、自分の死や病気、ケガや、老後の生活に備えるための保障制度のことで、介護保険や医療保険など、色々な保険があります。現代は、自分のため、残される家族のためにも生命保険は重要だと考えられ、日本では約八割もの人が加入しているそうです。

実際に、能登半島地震について報じていたニュースによると、保険金が迅速に支払われたおかげで、被災者も経済的支援を簡単に受けることができ、生活の再建に必要な資金を確保することができたり、別の保険と組み合わせることで、失ってしまった家の再建を図ることができたりしたそうです。保険で不可能を可能に、絶望から希望を見出すことができたのです。

僕は将来、教師か医師になりたいという夢があります。教師には教職員専用の特別な保険があり、手厚い保障が受けられることを知りました。もし医師になることができたときには、医療保険など、その重要さを皆に伝え、万が一のときも

第62回中学生作文コンクール

残される家族の心配をしなくても良いよう、安心して治療に専念できる環境づくりのお手伝いをしてあげられたら良いなと感じました。

このように、生命保険については、自分の未来を見つめることでもあると思います。残念なことに人は誰でもいつ病気になるか、命を落とすことになるか分かりません。だからこそ、いつでも保障を受けることができるような備えが必要であると考えます。

また、生命保険は能登半島地震のように自然災害などにも対応していることを、この作文を書くに当たり改めて詳しく調べることで学ぶことができました。人生百年時代、何が起こるか分からない世の中で安心して生活するためにも、また、自分のためだけでなく、自分を支えてくれるまわりの人のためにも、自分は生命保険に加入して生活していきたいと思いました。